

防災訓練実施結果報告書

平成 2 5 年 5 月 2 0 日

原子力規制委員会 殿

報告者

住所 東京者

1 番 1 号

氏名 株式会

代表執行役社長 佐々木 則夫

(担当者:

所属: 原子力技術研究所

)

防災訓練の実施の結果について、原子力災害対策特別措置法第 1 3 条の 2 第 1 項の規定に基づき報告します。

原子力事業所の名称及び場所	株式会社東芝 原子力技術研究所 神奈川県川崎市川崎区浮島町 4 番 1 号
防 災 訓 練 実 施 年 月 日	平成 2 5 年 3 月 8 日
防災訓練のために想定した 原 子 力 災 害 の 概 要	原災法第 1 5 条事象
防 災 訓 練 の 項 目	要素訓練 (想定した事象の進展に応じた各段階で実施)
防 災 訓 練 の 内 容	(1) 召集訓練 (2) 通報訓練 (3) モニタリング訓練
防 災 訓 練 の 結 果 の 概 要	別紙のとおり
今後の原子力災害対策に向けた 改 善 点	別紙のとおり

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とする。

2 氏名を記載し、押印することに代えて、署名することができる。この場合において、署名は必ず本人が自署するものとする。

防災訓練実施結果報告の概要

1. 訓練の目的

本訓練は、「株式会社東芝 原子力技術研究所 原子力事業者防災業務計画 第2章 第7節」に基づき、原子力災害発生時に原子力防災組織があらかじめ定められた機能を有効に発揮できるようにするため、役割の確認、手順の習熟及び改善を図るものである。

2. 実施日及び対象施設

(1) 実施日

平成25年3月8日

(2) 対象施設

東芝臨界実験装置（NCA）

3. 実施体制、評価体制及び参加人数

(1) 実施体制

原子力事業者防災業務計画に規定されている原子力防災組織で訓練を実施する。

(2) 評価体制

訓練終了後に訓練参加者にて反省会を実施し、訓練全体を通じた意見交換にて相互評価を行い、改善点の抽出を行う。

(3) 参加人数

29名

4. 原子力災害想定概要

停止中の臨界実験装置NCAで発生した火災が燃料室内部まで拡大し、燃料中の放射性物質が放出される原子力緊急事態の蓋然性が発生し、原災法第15条事象に至る原子力災害を想定する。詳細は次のとおり。

- ・ NCA制御室内で火災が発生する想定（初期対応）
- ・ 初期消火できず、制御室内で火災が拡大して、制御室が使用できなくなる想定（原災法10条通報事象）
- ・ 更に燃料室に火災が拡大し、燃料中の放射性物質が放出される蓋然性を想定（原災法15条事象）

5. 防災訓練の項目

要素訓練（想定した事象の進展に応じた各段階で実施）

6. 防災訓練の内容

(1) 召集訓練

(2) 通報訓練

(3) モニタリング訓練

7. 訓練結果の概要

訓練事象の進展に応じて、各段階で通報連絡、要員召集、本部活動・応急措置、モニタリング訓練を実施した。

①初期対応

- ・初期通報（所内、消防）、応急措置、初期消火
- ・NCA災害対策本部立上げ・要員召集、本部活動、トラブル通報（FAX、電話）
- ・モニタ線量・気象データ等の取得と通報

②原災法10条通報事象への対応訓練

- ・原子力災害対策本部立上げ・要員召集、本部活動
- ・制御室使用不可による10条通報の作成と通報（FAX、電話）
- ・空間線量モニタリング・気象データ等の取得と通報（FAX、電話）

③原災法15条事象への対応訓練

- ・燃料室への火災拡大による15条蓋然性の通報の作成と通報（FAX、電話）
- ・空气中放射能濃度モニタリング

④事象終息及び訓練終了

- ・公設消防の消火活動による鎮火後に、排気ダンパを手動操作で閉
- ・応急措置の通報（FAX、電話）、訓練終了宣言

なお、外部への通報及び公設消防の消火活動は模擬とした。

8. 訓練の評価

15条事象を想定した訓練は初めてであり、火災の想定は妥当であった。事象進展の各段階で、要員召集、通報連絡、モニタリングの訓練を実施した。

要素訓練ごとの評価結果は次のとおり。

- (1) 召集訓練では、定められた手順どおりに対応できたことを確認した。
- (2) 通報訓練では、定められた手順どおりに対応できたことを確認した。
- (3) モニタリング訓練では、実際の装備で屋外での測定も行い、必要な機材や準備時間等も確認でき、有効であった。

9. 今後に向けた改善点

15条事象を認識した訓練を通じて、迅速な通報連絡や適切な情報把握の観点から、対応を改善して行く予定である。

各要素訓練の今後に向けた改善点は次のとおり。

- (1) 召集訓練では、改善が必要な点は特になかった。
- (2) 通報訓練では、同報送信のファックス操作手順を見やすい所に表示する。また、同報送信は時間が掛かるので、他のファックスも使えるように検討する。
- (3) モニタリング訓練では、野外測定における電源確保方法の改善を検討する。

以上